

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「人にやさしい町づくり」(70時間)											
【ねらい】	○自分が生活する町の福祉に目を向け、福祉のよさに気付き関わろうとする。 ○様々な体験活動や実践を通して立場の異なるものへの接し方や大切さに気付く。 ○見学や体験を通して、自分ができることを進んで考え、実践する。										
【構成概念】	Ⅱ 相互性 Ⅳ 公平性 Ⅴ 連携性 Ⅵ 責任性										
【重視する能力・態度】	③多面的・総合的に考える力			④コミュニケーションを行う力			⑥つながりを尊重する態度			⑦進んで参加する態度	
【評価規準】	身の回りにある福祉を探して、福祉と自分の生活とのつながりに気付くことができる。			・施設見学や福祉実践教室で、自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞いたりすることができる。			・福祉と自分とのつながり・関わりに関心をもち、すすんで学び、交流しようとする。			・見学や体験を通して、人にやさしい町づくりのために、自分ができることは何かを考え、実践しようとする。	
単元名「福祉について知ろう」(6時間)			単元名「福祉実践教室で学んだこと」(14時間)			単元名「自分たちにできることをしよう」(30時間)			単元名「お年寄りから学ぼう」(20時間)		
【ねらい】 ・福祉に関連した公共施設、福祉に携わる人々の役割や働きを知り、福祉に対する興味・関心をもつ。 【学習活動】 ①施設の見学に出かけたとき、出会った人に挨拶をしたり、話しかけたりする。 ②見学から、施設の設備や人にやさしい工夫について、気付いたことを話し合う。 ③ワークシートを使って、「福祉とは何か」について話し合う。 ④総合福祉会館、総合体育館の見学で調べたことを、みんなに知らせたいことを中心にまとめる。 ⑤教えてもらった施設の人やお年寄りにお礼の手紙を書く。 ⑥町の中にあるバリアフリーを探し、発表する。 【地域人材・関係機関】 あま市総合福祉会館 あま市総合体育館(職員の方々)			【ねらい】 ・車椅子、手話、点字、ガイドヘルプ、盲導犬などの体験を通して、身体の不自由な人の生活や思いを知り、福祉に対する理解を深める。 【学習活動】 ①車椅子、手話、点字、ガイドヘルプ、盲導犬など福祉に携わる人々の役割やはたらきについて知る。 ②テーマについて、福祉実践教室で体験学習する。 ③それぞれの体験や身体が不自由な人への質問を考える。 ④福祉実践教室で学んだことを、ノートなどにまとめ、今後の学習の資料にする。 ⑤異なる体験学習をした友達と情報交換をする。 ⑦福祉実践教室の講師にお礼の手紙を書く。 【地域人材・関係機関】 福祉実践教室講師 社会福祉協議会			【ねらい】 ・車椅子、手話、点字、ガイドヘルプ、盲導犬などの体験をして学んだことを生かして、自分たちにできることを実践する。 【学習活動】 ①体験したり、学んだりしたことから自分の学習テーマを見つける。 ②福祉実践教室で学んだことをもとに本やインターネットなどの資料を用いて調べ学習を進める。 ③自分たちの身のまわりのバリアフリーについて調べる。 ④調べたことを模造紙や原稿用紙にまとめる。 ⑤調べたことをポスターセッションや劇化したもの、ペープサートなどに仕上げ、総合発表会で発信する。 ⑥調べたことをもとにやさしい町づくりのために自分たちにできることを話し合う。 ⑦体験や調べたことをもとにデイサービスセンターを訪ね、お年寄りや身体が不自由な方々と交流をもつ。 【地域人材・関係機関】 デイサービスセンター			【ねらい】 ・昔の道具やくらしの様子を調べ、体験活動を通して過去の生活における人々の知恵や工夫、人々の生活の変化に関心をもつ。 ・昔使った道具や遊びや学校生活について、お年寄りにインタビューをする。 ・昔から伝わる伝統の踊りをお年寄りから教えてもらい、地域のよさに気づき、愛着をもつ。 【学習活動】 ①昔の生活について知る方法を話し合う。 ②ゲストティーチャーを招いて、昔の生活について話を聞く。 ③昔使った道具・遊び・学校生活について、インターネットや図書館で詳しく調べる。 ④グループで調べて分かったことをくらしの変化が分かるように新聞や模造紙にまとめ、クラス・学年・保護者へ発表する。 ⑤学習を通して、ものを大切にしたり、家族のつながりを大切にしてきたことを感じ、今の生活を見つめ直す。 ⑥お年寄りから、踊り「甚目寺カッポレ」を教えてもらい、運動会で一緒に踊る。 【地域人材・関係機関】 ゲストティーチャー 民謡クラブ		